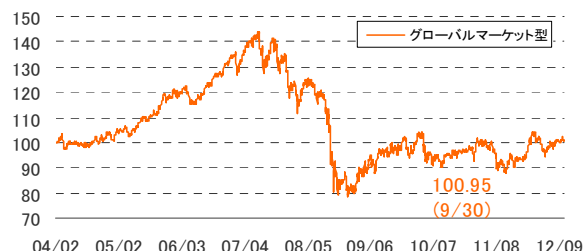


特別勘定クォーターレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アバディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	0.98%	3.50%	▲1.47%	14.04%	8.49%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	50.61%	50.00%	0.61%
北米地域	30.29%	29.54%	0.75%
欧州(除く英国)	8.38%	8.72%	-0.33%
英国	4.65%	4.75%	-0.11%
日本	4.39%	4.10%	0.29%
香港・シンガポール	1.63%	1.03%	0.59%
豪州・ニュージーランド	1.27%	1.85%	-0.58%
債 券	48.89%	50.00%	-1.11%
米ドル圏	15.98%	16.28%	-0.30%
欧州(除く英国)	14.07%	14.83%	-0.76%
英国	2.93%	2.77%	0.17%
日本	15.92%	16.13%	-0.21%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	50.14%	46.31%
ユーロ圏	19.83%	21.65%
イギリスポンド	7.55%	7.52%
豪ドル(含NZD)	0.81%	2.39%
スイス・フラン	2.99%	1.90%
日本円	18.68%	20.23%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティグループ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称

グローバルマーケット型

主な運用対象
の投資信託世界バランス・ファンド
(適格機関投資家専用)投資信託の
運用会社

アバディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
0.89%	3.17%	▲2.04%	12.58%	4.67%	0.95%

特別勘定資産内訳

					構成比(%)
現 預 金	・	そ の 他	・	投 資 信 託	0.5%
合 計					99.5%
					100.0%

■ 上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 178)

株式	国名	業種	投資比率
ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	ヘルスケア	2.76%
PHILIP MORRIS INTERNATIONAL	アメリカ	生活必需品	2.51%
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	ヘルスケア	2.39%
VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	2.34%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	2.31%
NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	ヘルスケア	2.19%
ZURICH INSURANCE GROUP AG	スイス	金融	2.03%
ROYAL DUTCH SHELL PLC-B SHS	イギリス	エネルギー	2.00%
CVS CAREMARK CORP	アメリカ	生活必需品	1.84%
STANDARD CHARTERED PLC	イギリス	金融	1.78%
合計			22.16%

債券	クーポン	償還日	投資比率
アメリカ国債	2.750	2016/11/30	2.53%
アメリカ国債	3.625	2020/02/15	1.52%
アメリカ国債	2.250	2015/01/31	0.80%
第260回利付国債(10年)	1.600	2014/06/20	0.74%
アメリカ国債	3.500	2039/02/15	0.66%
ドイツ国債	3.500	2013/04/12	0.59%
第40回利付国債(20年)	2.300	2018/09/20	0.54%
フランス国債	3.500	2015/04/25	0.53%
イギリス国債	4.250	2039/09/07	0.48%
第287回利付国債(10年)	1.900	2017/06/20	0.46%
合計			8.85%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

(7月) 日銀短観が改善を示した内容であったものの、日本工作機械工業会が発表した6月の受注額が前年同月比15.5%減と、2カ月連続で前年実績を下回ったこと等で株式市場は下落しました。

(8月) 日本の4-6月期の実質GDP成長率は、政策効果による内需の押し上げを背景に4四半期連続で前期比プラス(+0.3%)となりましたが、株式市場はやや下落しました。

(9月) 月末に発表された8月の日本の鉱工業生産指数は前月比2カ月連続で低下するなど、世界的な株価上昇に取り残されています。

・日本債券

(7月) 12日に開かれた日銀の金融政策決定会合で追加金融緩和が見送られましたが、今後可能性が残ったことが金利低下要因となりました。

(8月) 消費税率を段階的に引き上げる消費増税法案を巡る混乱が長期金利の上昇要因となりました。

(9月) 日銀が19日の金融政策決定会合において、資産買い入れ基金の10兆円増額を決定しました。

・外国株式

(7月) ドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁の表明でユーロ存続への期待感が高まり、月間では日本を除き世界的に株式市場は上昇しました。

(8月) パーナンキFRB議長による追加金融緩和や、ドラギECB総裁による欧州危機への対応策に期待が集まり、欧州を中心に上昇基調が続きました。

(9月) 欧州の金融安全網となるESM(欧州安定メカニズム)が10月に発足見通しとなり、世界的に株価が上昇しました。

・外国債券

(7月) ユーロ圏および中国の利下げ、英国の資産購入枠拡大で主要国の国債利回りは低下する一方、国内銀行に加え地方財政も懸念されるスペインの10年物国債利回りは危険水準とされる7%を超え、ユーロ導入以来の高水準に達しました。

(8月) ECBが政策金利を据え置きつつも国債購入再開の可能性を示すと、イタリアやスペインの国債利回りが大きく低下しました。

(9月) ECBが償還期間3年未満の国債を購入する新たな国債買い入れ策を発表したことで、リスク回避から選好されてきた欧米主要国の金利は上昇しました。

・為替

(7月) 円が主要通貨に対してほぼ全面高となり、ユーロは対米ドルでも下落しました。

(8月) ユーロが主要通貨に対して全面高となり、円は対米ドルでは同水準でした。

(9月) FRBが示した量的緩和第3弾を受けて米ドルは下落し、日本では日銀が資産買い入れ基金の総額を10兆円増額して円高に対応しました。

運用概況

・今四半期(2012年7月~9月)のファンドのパフォーマンスは基準価額ベースで+3.50%となりました。月別に見ると7月が+1.54%、8月が+0.94%、9月が+0.98%となりました。資産別に見ると、株式の保有が欧州を中心にマイナス、債券の保有はややプラス、為替効果はややプラス要因となりました。

・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。その主な要因となった株式では、資産配分効果および地域配分効果において、大幅に上昇した新興国市場への投資がプラスでしたが、銘柄選択効果は日本を除く各地域で大きくベンチマークを下回るリターンからマイナスになりました。債券は9月末にベンチマークに追加された南アフリカの国債を保有開始するなどベンチマークを意識した配分を行い、若干のプラスに貢献しました。為替要因は、下落幅の大きかった米ドルをオーバーウェイトしていたものの、ユーロとポンドにおけるタイミングの良い取引からプラスとなりました。

・今四半期の資産配分については、株式、債券ともに中立を意識した配分を継続しました。ただし、株式の地域配分については、相対的に景気が堅調な北米地域をオーバーウェイトする一方、構成国の財政不安が拡大傾向にある欧州(除く英国)を引き続きアンダーウェイトしました。債券に関しては、現預金分だけ日本をアンダーウェイトとした以外は特に大きなウェイト付けは行いませんでした。通貨に関しては、円が主要通貨に対して強くなる環境において、豪ドルをアンダーウェイトする他は全般に中立を維持しました。

運用方針

・欧州では債務問題への支援体制、米国では景気浮揚への追加金融緩和が進展しています。その影響を見極めるため、株式・債券のウェイト付けは大きく行う局面にはないと考えてほぼ中立とします。

・株式の地域配分として、欧州(除く英国)をアンダーウェイト、香港・シンガポールなどアジア株式をオーバーウェイトする予定です。他地域については、全般的にウェイト付けは行わない予定です。

・債券については、各国・各地域とも大きなウェイト付けは行わず、日本についてのみ現預金相当分をアンダーウェイトする方針とします。

・為替に関しては全般に中立を基本とし、やや過大評価と見られる豪ドルをアンダーウェイトする一方、米ドルをオーバーウェイトする方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※)) /365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.714%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険（無配当）「スイス年金」は現在販売していません。

【募集代理店】

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>